



東京や大阪などでは、熱が出てもこの医療機関も診てくれないなどということ聞きますが、府中市ではそういったことがなく対応できたのは、PCR検査機器を整備できていたことが大きいのではないかと考えております。

令和3年からは、コロナの患者さまも受け入れております。個室不足やスタッフのやりくりの問題、またスタッフも体力的・精神的にかなりストレスがあり、涙ぐましい努力をしていた状況です。

市長 本当に変な中ありますがどうございます。多田院長から職員の大変心苦しく思っております。

大変心苦しく思っております。

市長 スタンダードの形がない中、手探りの状態で取り組んでいたが、職員の皆さんもかなり気を使われたのではないかと思います。本当にありがとうございます。

病院の役割と取り組み

市長 まず多田院長、地域の中核病院としての府中市民病院の役割や、どのような病院にしていきたいかなどのお考えをお伺いします。

多田 4つの方向性を考えています。1つ目は、幅広い医療を提供できる病院。救急医療などのプライマリケアから、手術などの急性期医療、リハビリテーションなどの回復期医療、そして慢性期医療、在宅医療や予防医療といった幅広い医療を提供していきたいです。2つ目は、その中でも特色ある専門領域を育てること。救急医療、整形外科医療、甲状腺外科、女性医療、慢性腎臓病といった領域を伸ばしていきたいです。3つ目は、地域づくりに貢献できる病院。4つ目は、ささやかな感動を提供できる病院でありたいと思っています。

市長 令和元年9月に、厚生労働省が突如として公立・公的病院の統合再編を踏まえた再検証要請を出してきました。府中市民病院もその対象になっております。地域の実情を無視した形で一方的に出されたのではないかと感じており、市としても本当に遺憾に感じているところです。病院と連携してこの問題には対処していきたいと思っておりますが、その再検証問題について、お考えをお聞かせください。

多田 府中市の病院のベッド数を人口当たりと比較すると、一般病床は全国平均の74%、療養病床は49%と少ないんですね。医師数も全国平均の61%ということで、府中市は医療資源が不足しています。そういう状況は全く無視した要請であり、非常に腹立たしい限りだと思っております。また府中市民病院は、既に時代のニーズに応じた再編というのを率先して行っている



皆さんのストレスについてもお話がありました。池庄司さんがプロジェクトマネージャーの職に就かれて、気を使われた点や、改善をされた点がありますか。

池庄司 まず、昨年の4月から面会を原則禁止しまして、家族と直に会えない中で患者さまの心のケアですね。主治医の先生も、電話などで病状の説明などの話はしっかりしてくださいますが、顔が見えないため、説明が十分理解いただけていないこともありまして。現在は面会の制限を緩和して、特に終末の方やお気持ち病んでいらっしゃる方は、できるだけ面会ができるよう工夫をしています。

また、コロナ病床対応に関する教育も職員のストレスになりました。さらに、医療従事者ということだけで直接誹謗中傷を受け、それもつらかったと思います。職員のメンタル面については、かなり時間をとって話をしまして、令和3年になってからは少し落ち着いてきました。

市長 本当にご苦労がたくさんあったと思います。中井院長はいかがでしたでしょうか。

中井 府中市民病院ほどはなかったかもしれませんが、府中北市民病院においても、経営面への影響

やスタッフのストレスは同じようでありました。当院の患者さまは高齢の方が多いことに加え、サービスピック高齢者向け住宅に入居されている方もいらっしゃるため、院内にウイルスを持ち込んで広めることがないように、スタッフ一同かなり気を使い、ストレスを感じた者も多かったと思います。スタッフ同士の交流や、患者さまの地域での交流もかなり減っており、今後何とかしたいと考えております。

また、オンライン診療も始めております。高齢の方は機器の扱いに慣れておられないなどの課題はありますが、診察だけではなく、オンラインで健康相談を行うなど、取り組みを進めていきたいです。

市長 若木院長はいかがですか。

若木 コロナが原因で引きこもりや、うつ病になるケースが新たに発生しました。また、施設もより一層の清潔管理が必要となり、職員スタッフはかなり神経質になりました。しかし今ではそれを乗り越え、当たり前のように厳格な感染対策が行われています。

コロナによって変わったことは、家族との面会が、ガラス越しかオンラインでしかできないということとです。こればかりはコロナの早い終息を望むしかないので、

たわけですが、それも全く考慮してくれていません。今後は、医療資源の乏しい府中市において、一般医療と健康づくりに欠かすことのできない存在であること、また、今回コロナの患者さまの受け入れや帰国者接触者外来など、小さい病院の割には頑張っていますというところをアピールしていきたいと思っております。

市長 お聞きした実情を、国へしっかりと伝えていきたいと思っております。そうした中、池庄司さんには、患者満足度の向上や患者接遇改善に取り組んでいただいています。どんな取り組みをされているのか、また、府中市の病院にいられて気づかれた点や変わってきたと思われる点についてお聞かせください。

池庄司 赴任した際、職員が患者さまの目線で関わっていないという印象を受けました。過去の経験から、患者さまやご家族が病院に何を期待し、医療従事者としてどのように関わってほしいのかを知るのには、患者満足度調査が効果的だと思い、始めました。調査では、やはり看護師の言葉遣いや態度に声が上がりました。まず看護部を主導で接遇パトロールを行いました。このような取り組みを続けておりましたら、患者さまから

私のリフレッシュ方法



私はスポーツをしたり、観戦することでリフレッシュできます。皆さんのリフレッシュ方法はありますか？



ジョギングと、岡山のサッカーチームの応援ですね。応援で一喜一憂するというのがリフレッシュです。



旅行と温泉巡りです。機能評価の調査をしているおかげで、北海道から沖縄まで行っています。次は九州に行く予定です。



釣りですね。集中していると、さまざまなストレスが解消されます。屋外なので、コロナ禍では適した余暇だと思います。



絵画を見ることです。描いた人の生き方を知るとその絵を見ると、余計面白く、そういうところに惹かれますね。